

1. 新たなデータによる地すべり機構の検証

事項 要点 備考

1-3 変位量解析

- ・平成17年度実施ボーリングにて設置された、大滝・迫・白屋上流・寺尾・井戸地区の変位量データ（孔内傾斜計、パイプ歪計）を解析した。
- ・迫地区以外の4地区については、特定深度における累積性変位は観測されていない。
- ・迫地区については、高原トンネル近傍の1孔（下部すべり：SK05-6孔）でのみ、累積性変位とも考えられる挙動が観測された。変位量が軽微で、またその他の孔で累積性の変位は認められないことから、下部斜面全域における挙動とは考えられないが、観測継続が必要である。

表1-3-1に、変位量観測機器構成を示す。

以下より、これまでの観測結果について、各地区のすべり面付近の斜面挙動をベクトルデータとして表示させた解析図を示す。

表 1-3-1 観測機器構成

孔番	観測機器		観測期間		備考
	孔内傾斜計	パイプ歪計	自	至	
OT05-1		○	H17.10	H18.9	
OT05-2	○		H17.8	H18.9	H18.4機器交換
OT05-3	○		H17.9	H18.9	#
OT05-4	○		H17.9	H18.9	#
OT05-5	○		H17.12	H18.9	#
OT05-6	○		H17.11	H18.9	#
OT05-7	○		H17.9	H18.9	#
OT05-8	○		H17.11	H18.9	#

孔番	観測機器		観測期間		備考
	孔内傾斜計	パイプ歪計	自	至	
SK05-1	○		H17.9	H18.9	
SK05-2	○		H17.10	H18.9	
SK05-3	○		H17.9	H18.9	
SK05-4	○		H17.10	H18.9	
SK05-5	○		H17.9	H18.9	
SK05-6	○		H17.10	H18.9	累積性変位の疑い
SK05-7	○		H17.11	H18.9	
SK05-8	○		H17.11	H18.9	
SK05-9	○		H18.2	H18.9	
SK05-10	○		H18.2	H18.9	

孔番	観測機器		観測期間		備考
	孔内傾斜計	パイプ歪計	自	至	
SY05-1	○		H17.9	H18.9	
SY05-2	○		H17.9	H18.9	
SY05-3	○		H17.10	H18.9	
SY05-4	○		H17.10	H18.9	

孔番	観測機器		観測期間		備考
	孔内傾斜計	パイプ歪計	自	至	
TR05-1	○		H17.9	H18.9	
TR05-2	○		H17.10	H18.9	
TR05-3	○		H17.10	H18.9	
TR05-4	○		H17.9	H18.9	
TR05-5	○		H18.1	H18.9	
TR05-6	○		H18.2	H18.9	
TR05-7	○		H18.2	H18.9	

孔番	観測機器		観測期間		備考
	孔内傾斜計	パイプ歪計	自	至	
ID05-1	○		H17.9	H18.9	
ID05-2	○		H17.10	H18.9	

1. 新たなデータによる地すべり機構の検証		
事 項	要 点	備 考
1-3 変位量解析	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大滝地区： 累積性変位は観測されない</div> <p>大滝地区の観測孔位置図および、すべり面付近の斜面挙動をベクトルデータとして表示させた解析図を、図 1-3-1 に示す。</p> <p>各孔における変位方向は、一定の方向性を示さず、地すべり性の累積性変位は認定できない。</p>	
1-3-1 大滝地区		

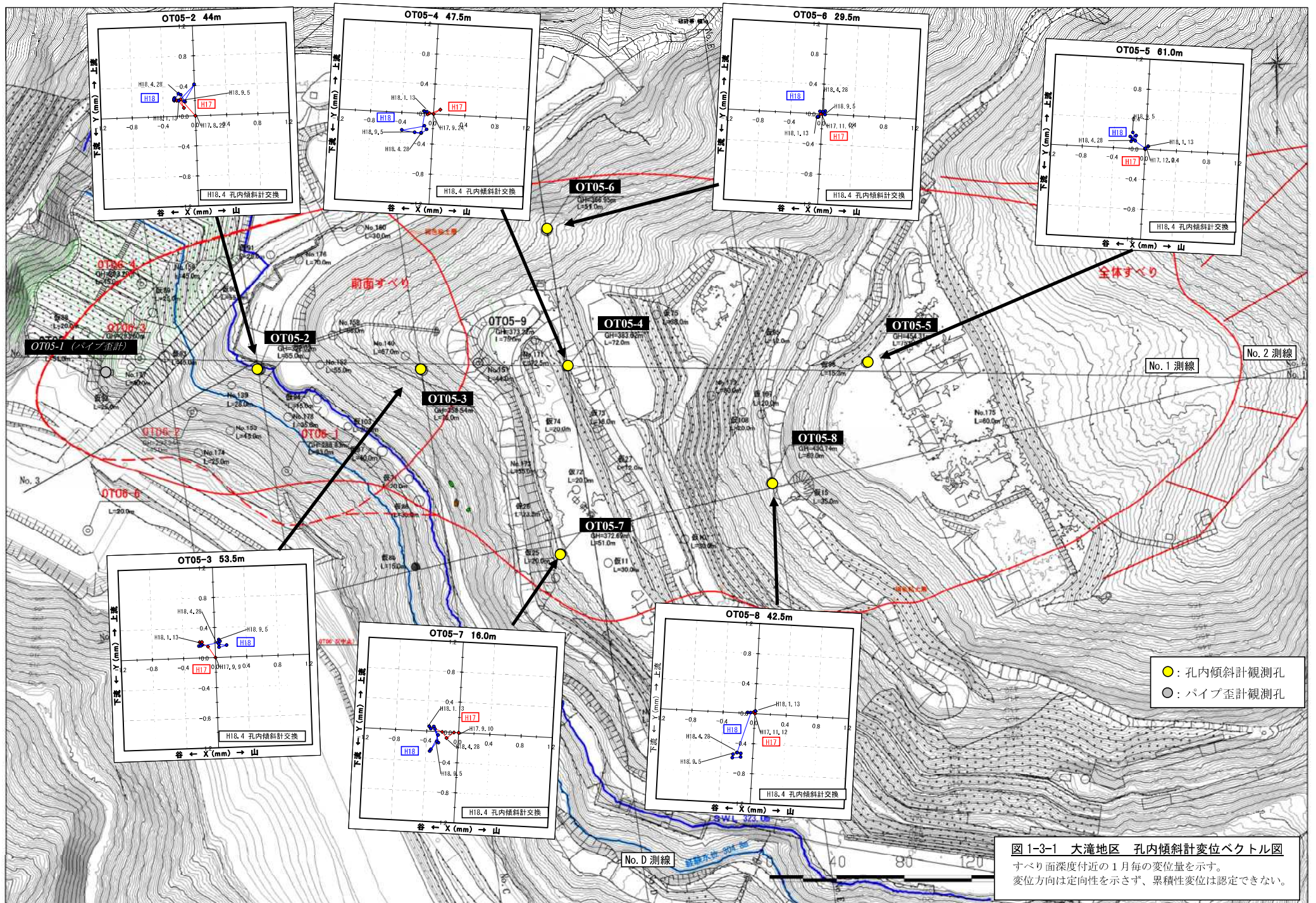


図 1-3-1 大滝地区 孔内傾斜計変位ベクトル図
すべり面深度付近の 1 月毎の変位量を示す。
変位方向は定向性を示さず、累積性変位は認定できない。

1. 新たなデータによる地すべり機構の検証		
事 項	要 点	備 考
1-3 変位量解析	<p>高原トンネル近傍の1孔（下部すべり：SK05-6孔）でのみ、累積性変位とも考えられる挙動が観測された。変位量が軽微で、またその他の孔で累積性変位は認められないことから、下部斜面全域における挙動とは考えられないが、観測継続が必要である。</p>	
1-3-2 迫地区	<p>迫地区の観測孔位置図および、すべり面付近の斜面挙動をベクトルデータとして表示させた解析図を、図1-3-2に示す。</p> <p>高原トンネル近傍の1孔（下部すべり：SK05-6孔）において、累積性変位とも考えられる挙動が観測されている。</p> <p>SK05-6孔は、他の観測孔と比べやや大きな変位が観測されている。しかしながら変位量は、平成17年10月から平成18年9月までの11ヶ月間で、1mmに満たない軽微なものである。またその他の孔で累積性の変位は認められないことから、下部斜面全域における挙動とは考えにくい。ただし、観測継続が必要であると考えられる。</p> <p>SK05-8孔は、最近の変位傾向（H18.8月、9月データ）を見ると、変位量、変位方向の点でSK05-6孔に類似する挙動を示す。ただしSK05-6孔の挙動に比べ、変位のバラツキが大きく、また定向性変位は示さないことから、累積性の変位とは認定しにくい。SK05-6孔とあわせ、今後の挙動を注視する必要がある。</p> <p>その他の観測孔では、変位方向は一定の方向性を示すことはなく、累積性変位は認定できない。</p>	

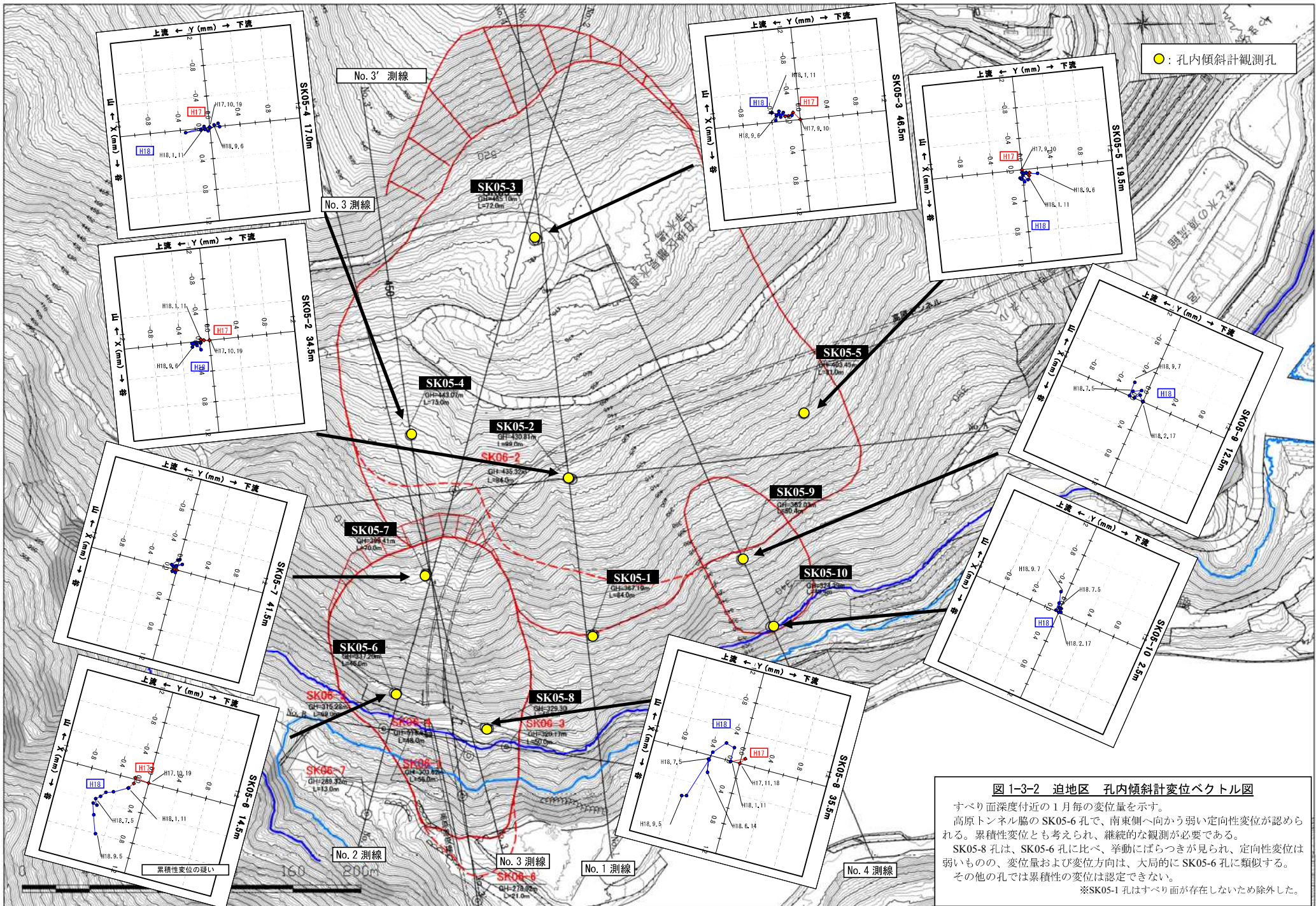
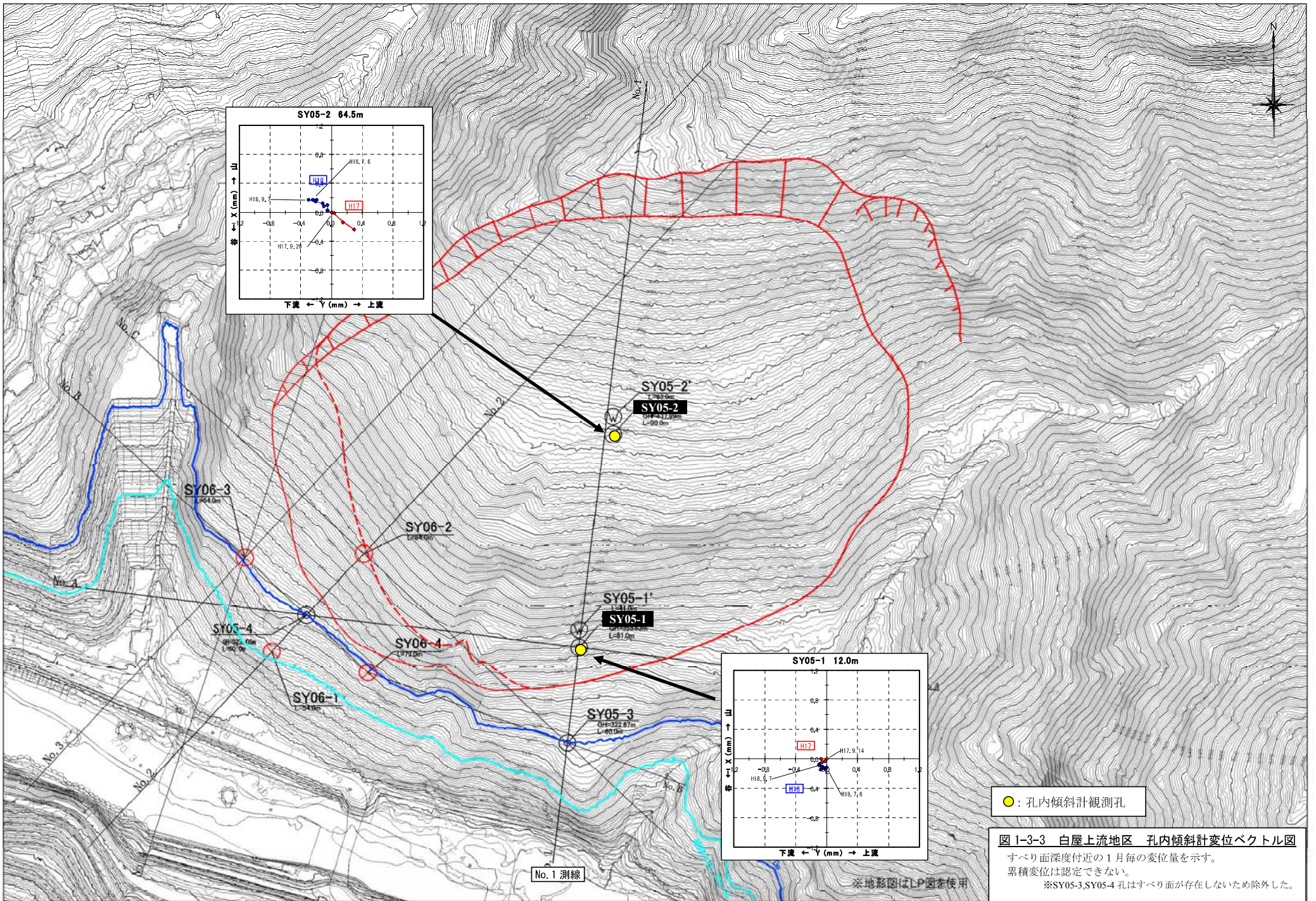


図 1-3-2 迫地区 孔内傾斜計変位ベクトル図

すべり面深度付近の1月毎の変位量を示す。
 高原トンネル脇のSK05-6孔で、南東側へ向かう弱い方向性変位が認められる。累積性変位とも考えられ、継続的な観測が必要である。
 SK05-8孔は、SK05-6孔に比べ、挙動にばらつきが見られ、方向性変位は弱いものの、変位量および変位方向は、大局的にSK05-6孔に類似する。
 その他の孔では累積性の変位は認定できない。
 ※SK05-1孔はすべり面が存在しないため除外した。

1. 新たなデータによる地すべり機構の検証		
事 項	要 点	備 考
1-3 変位量解析	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 白屋上流地区： 累積性変位は観測されない </div>	
1-3-3 白屋上流地区	<p>白屋上流地区の観測孔位置図および、すべり面付近の斜面挙動をベクトルデータとして表示させた解析図を、図 1-3-3 に示す。</p> <p>各孔における変位方向は、一定の方向性を示さず、累積性変位は認定できない。</p>	



1. 新たなデータによる地すべり機構の検証		
事 項	要 点	備 考
1-3 変位量解析	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 寺尾地区： 累積性変位は観測されない </div>	
1-3-4 寺尾地区	<p>寺尾地区の観測孔位置図および、すべり面付近の斜面挙動をベクトルデータとして表示させた解析図を、図 1-3-4 に示す。 またそれぞれの解析深度を、図 1-3-8 に示す。</p> <p>各孔における変位方向は、一定の方向性を示さず、累積性変位は認定できない。</p>	

1. 新たなデータによる地すべり機構の検証		
事 項	要 点	備 考
1-3 変位量解析	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">井戸地区： 累積性変位は観測されない</div>	
1-3-5 井戸地区	<p>井戸地区の観測孔位置図および、すべり面付近の斜面挙動をベクトルデータとして表示させた解析図を、図 1-3-5 に示す。</p> <p>各孔における変位方向は、一定の方向性を示さず、累積性変位は認定できない。</p>	

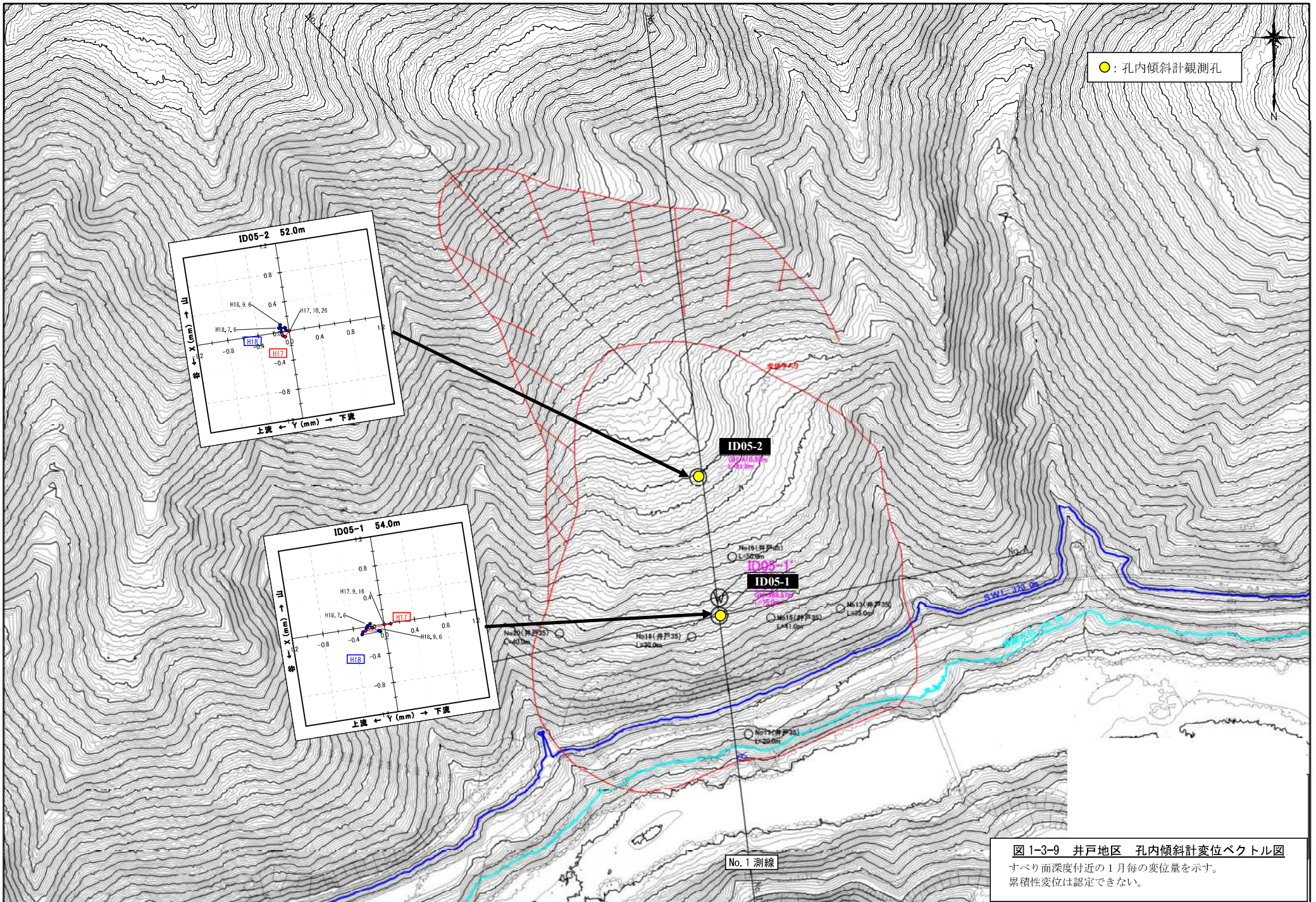


図 1-3-9 井戸地区 孔内傾斜計変位ベクトル図
 すべり面深度付近の 1 月毎の変位量を示す。
 累積性変位は認定できない。